

「人権尊重」 4月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

「先生に」 柴田トコ

私をおばあちゃんと呼はないで

「今日は何曜日？」

「9+9は幾つ？」

そんなバカな質問も しないでほしい

「柴田さん、西条八十の詩は好きですか？ 小泉内閣をどう思いますか？」

こんな質問なら うれしいわ

(詩集「くじけないで」より)

この詩は、柴田さんが94歳の時に書かれた詩です(詩の中の先生は医師)。この詩を読まれてどんな感想を持たれましたか。

先生は、柴田さんを不愉快にしようとしたのではなく、仕事上、認知症の疑いはないか簡単な質問をしたのだと想像できます。また、親しみを込めて「おばあちゃん」と呼んだのかもしれないが、その思いは柴田さんには伝わっていません。それどころか、「おばあ

ちゃんと呼ばないで」と、不快な思いをさせてしまいました。

電車やバスなどで、善意で高齢者に席を譲ろうとして相手に不快な思いをさせた話を聞くことがあります。年は重ねていても、年寄り扱いされたくない、しかも足腰を鍛えたいと思っているような場合、こんなことが起こりがちです。相手への思いやりも、相手の立場を尊重して初めて本当のものになります。大切なことは、相手の立場に立とうとする細やかな心遣いや思いやりの心ではないでしょうか。柴田さんの詩からも「おばあちゃんと呼ばれたくない」「一人の人間として自分の趣味や今の政治について話をしたい」という思いが伝わってきます。

相手に受け入れられるために、どんな言葉を使おうかと考える時、相手の立場や気持ちに寄り添う優しさ

の扉が開かれます。そんな日々の行いが、お互いを尊重し共に生きる社会につながります。

